九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

九州北部の可能表現

木部，暢子
福岡女学院短期大学

石田，直子
福岡女学院短期大学

市橋，潤子
福岡女学院短期大学

井上，優子
福岡女学院短期大学

他

https://doi.org/10.15017/10422

出版情報：文獻探究. 21, pp.1-13, 1988-03-25. 文献探究の会
バージョン：
権利関係：

九州北部の可能表現

木部　暢子　石田　直子
市橋　潤子　井上　優子
川島　由美　宮崎　朋子
村嶋　奈保子　室谷　愛子

1、はじめに

九州地方は可能表現に関して、状況可能と能力可能とを言いわける方言として、よく知られている。例えば「水が汚くて泳げない」の時は「オヨガレン」または「オヨゲン」と言い、「自分の力不足でまだ100mも泳げない」の時には「オヨギキラン」または「オヨギエン」などを使う。種友明・糸井寛一「大野川流域における可能表現」、種友明・日高貢一郎「大分県津江地方の可能表現」によると、これらの地域では状況可能に二種類の区別があり、能力可能とあわせて次のような三種類の可能表現を言いわけるという。

客観状況可能「このリンゴは腐っていて食べられない」……タベラレン

主観状況可能「腹がいっぱいで食べられない」……タベレン・タベレレン

能力可能「ニンジンは嫌いだから食べられない」……タベキラン

また「キル」には、愛宕八郎康隆「肥前長崎地方の「～キル」「～ユル」について」に言うように、「雨が降りきらんね」のような非情物が動作主になる場合がある。雨や花・洗濯機のような非情物は、日本語では一般に能力可能の主体とはならないから、このような表現は擬人法ということになるのかもしれない。しかし、この表現のなかには、たんなる擬人法だけでなく、「しばらく雨が降っていないので降って欲しい、そう思っているところへ天気が崩れてきて雨が降りそうになった、しかし降らない」といった話手の期待と失望とがこめられているのである。その意味でやはり非情物たる「雨」に「降る」能力を期待した立派な能力可能の表現である。

以上のような可能表現について、福岡県・佐賀県・長崎県・大分県の若年層（15·6才～24·5才）を対象として調査を行った、その結果を報告したい。調査の主目的は、

（１）若年層で状況可能と能力可能の使いわけがどのようになっているのか。

（２）外的（客観）状況可能と内的（主観）状況可能を別々の語形で言いわけるのかどうか。

（３）共通語でよく話題になる一段活用動詞の可能形は「ミラレル」なのか「ミレル」なのか。またこれは（２）とも関係が深いが、もし両方を使うとしたら、両者の間に意味の違いはないのか。

（４）非情物が動作主になった場合の「キル」の使用状況

などである。福岡市については、若年層のほかにも中年層（35才～60才）の調査を行うことができたので、この比較もしてみたい。

(2)

2、調査の概要

調査は、昭和62年12月から昭和63年 1月にかけて行い、調査票によるアンケート方式をとった。個人個人の面接調査を基本とするが、なかには被調査者に書き込んでもらった場合もある。調査にあたったのは木部以下7名、いずれも九州北部の出身で、木部の勤務する福岡女学院短期大学の二年生である。各人の出身地は次のとおり。

木部……福岡県北九州市　　石田……福岡県福岡市(9才まで)

市橋……福岡県朝倉郡　　井上……長崎県南高来郡（島原半島）

川島……大分県宇佐市　　宮崎……福岡県福岡市

村嶋……福岡県福岡市　　室谷……福岡県築上郡

調査対象地域と被調査者の人数は、福岡県の北九州市とその周辺（9名)、築上地域（7名)、筑豊地域（6名)、宗像（4名)、福岡市（若年層58名・中年層8名)、筑後地域（19名)、佐賀県の佐賀市・鳥栖市・唐津市（9名)、長崎県の南高来郡（17名)、五島（1名)、佐世保市（3名)、平戸市（1名)、壱岐（1名)、大分県の国東・大分市・臼杵市・津久見市・竹田市（5名)。それぞれの地域には、その地域出身の者があたるようにした。他地域出身者では、可能表現の微妙な意味あいの違いを理解することは難しいと思ったからである。

つぎに調査票だが、これを作るのになかなか苦労した。最初、条件だけ設定しておいて語形を記入してもらう方式の調査票を作ってみた。例えば、

水が汚いから（　　）

水着を家に忘れて来たから（　　）

のようなものを作り、文を完成してもらうのである。ところがこの方式の調査票では、被調査者が自分の言語をあまり考えることをしないで、ほとんど全部同じ語形で答えてしまうか、あるいは共通語で答えてしまう可能性の高いことがわかった。そこであらかじめ語形を与えておいて、こういう語形とこういう語形とこういう語形と……があるんだということを被調査者に学習させておいてから、その中のどれを使うのか選んでもらう方式の調査票に変えた。そうしてできたのが次のような調査票である。すこし長くなるが、質問文の微妙なニュアンスの違いによって答えも微妙に変化してくると思われるので、全文を上げておく。

方言に関するアンケート（可能表現）

次の文例の（　　）の中に、あなたのふだん使うことばで、いちばん自然だと思われる言い方を＜　　＞の中から選んで、その番号を書き入れて下さい。二つ以上ある場合は、よく使う順に二つ以上書き入れて下さい。また、あなたがふだん使うことばが＜　　＞の中にない時、または＜　　＞の中のことば以外にも他の言い方があるような時には、それを（　　）の中に書き入れて下さい。いずれも不可能（～できない、～することができない）の意味です。

（1）泳ぐ＜①オヨガレン②オヨゲン③オヨゲレン④オヨギキラン＞

（イ）水が汚いから（　　）

（ロ）足を怪我したから（　　）

（ハ）水着を家に忘れて来たから（　　）

（ニ）練習が足りないので海ではまだ（　　）

（ホ）このおたまじゃくし、まだうまく（　　）

（2）書く＜①カカレン②カケン③カケレン④カキキラン＞

（イ）机をがたがたさせたら（　　）

（ロ）部屋が暗すぎて（　　）

（ハ）こんなうるさい所では（　　）

（ニ）こんな難しい字は（　　）

（ホ）こんなにたくさん、明日までには（　　）

（3）言う＜①イワレン②イエン③イエレン④イイキラン＞

（イ）人に聞かれると困るからここでは（　　）

（ロ）このことは秘密だから言いたいけど（　　）

（ハ）大勢の前では恥ずかしくて（　　）

（ニ）知らない人に「たばこを吸わないで下さい」なんて（　　）

（ホ）早口ことばは（　　）

（ヘ）この九官鳥まだ「おはよう」って（　　）

（4）咲く＜①サカレン②サケン③サケレン④サキキラン＞

（イ）場所が狭すぎて、この花（　　）

（ロ）陽が当たらないから、この花（　　）

（ハ）せっかく継ぎ木をしたのに、この花（　　）

（ニ）あんなに手入れしたのに、この花（　　）

（5）回る＜①マワラレン②マワレン③マワレレン④マワリキラン＞

（イ）洗濯物を入れ過ぎたから洗濯機が（　　）

（ロ）もう古くなったから洗濯機が（　　）

（ハ）コードの接触が悪くて洗濯機が（　　）

（6）上がる＜①アガラレン②アガレン③アガレレン④アガリキラン＞

（イ）私の凧は上がったけどあんたのは（　　）

（ロ）作り方が悪いのか、凧が（　　）

（7）通る＜①トオラレン②トオレン③トオレレン④トオリキラン＞

（イ）道路工事中で（　　）

（ロ）道が狭くて（　　）

（ハ）大きな犬がいて怖いからあの道（　　）

（ニ）あんな難しい試験にはとてもじゃないけど（　　）

（8）食べる＜①タベラレン②タベレン③タベレレン④タベキラン＞

（イ）このケーキ腐っているから（　　）

（ロ）風邪をひいて食欲がないから御飯（　　）

(4)

（ハ）お腹がいっぱいでもう（　　）

（ニ）ニンジンは嫌いだから（　　）

（ホ）捨て猫にごはんをやったけど、弱っていて（　　）

（９）見る＜①ミラレン②ミレン③ミレレン④ミキラン⑤ミキキラン⑥ミッキラン
⑦ミーキラン⑧ミリキラン＞

（イ）明日は用事があるからそのテレビ番組（　　）

（ロ）眠たくてもうこれ以上テレビ（　　）

（ハ）怖い映画は（　　）

（ニ）このごろ眼がすぐ疲れて長くはテレビ（　　）

（１０）出る＜①デラレン②デレン③デレレン④デキラン⑤デキキラン⑥デッキラン
⑦デーキラン⑧デリキラン＞

（イ）選手に選ばれなかったからリレーには（　　）

（ロ）足怪我したから運動会に（　　）

（ハ）仮装行列とかはずかしくて（　　）

（ニ）泳ぎがまだへただから沖の方までは（　　）

（ホ）肥料のやり方が悪いのか、芽が（　　）

（１１）寝る＜①ネラレン②ネレン③ネレレン④ネキラン⑤ネキキラン⑥ネッキラン
⑦ネーキラン⑧ネリキラン＞

（イ）周りがうるさくて（　　）

（ロ）今日はたっぷり昼寝したから夜になっても（　　）

（ハ）まだ８時だから寝ろって言ったって（　　）

（ニ）布団じゃないとベットじゃ（　　）

（１２）行く＜①イカレン②イケン③イケレン④イキキラン＞

（イ）そんなに朝早くはバスの便がないから（　　）

（ロ）明日は用事があって学校には（　　）

（ハ）道がわからないからひとりでは（　　）

（ニ）そんな暗い道、ひとりではこわくて（　　）

（１３）する＜①シラレン②サレン③セレン④セレレン⑤シキラン⑥シキキラン
⑦シッキラン⑧シーキラン⑨シキリキラン＞

（イ）人がいっぱいでテニスの練習（　　）

（ロ）風邪をひいているから水泳は（　　）

（ハ）そんな難しい問題は（　　）

（ニ）まだそこまで習っていないから（　　）

（ホ）「テニスの相手して」「いや、あんた強いから相手なんか（　　）」

質問文は、種・糸井、種・日高論文を参考にしつつ、それぞれの動詞について、外的状況可能・内的状況可能・能力可能の三種類の条件を設定し、否定形で答えてもらうようにした。可能表現に限らず、終止形がそのままの形で会話に現れることはあまりなく、むしろ否定形で質問した方が方言が出やすいからである。また「１、はじめに」で述べたよう

な目的を果たせるように質問文を工夫したつもりであるが、実際に調査してみると、必ずしも我々が予期した回答が得られるとはかぎらなかった。例えば、(9)の(イ)「明日は用事があるからそのテレビ番組(　　)」は、外的状況可能の回答を予想した質問文なのだが、ここで「ミキラン」と答えた人がとくに佐賀県で多かった。これは佐賀県で外的状況可能に「ミキラン」を使うと考えるよりも、おそらく質問文の解釈の違いにあるのではないかと思う。我々が外的状況可能のつもりで作った質問文が、ある被調査者にとっては能力可能と映ったのである。このような、場面や受け取り方によって微妙な使いわけのある方言事象を調査することがいかに難しいか、つくづく感じた。質問文の(4)、(5)、(6)は非情物動作主に関する項目である。また非情物とまではいかなくても人間以外の動物に対して「キル」を使うかどうかをみるために、(1)の(ホ)、(3)の(へ)、(8)の(ホ)をいれた。

3、状況可能と能力可能

今回調査したすべての地域で、状況可能と能力可能とを別の語形で言いわける現象がみられた。状況可能には「オヨガレン」「タベラレン」などの「語幹+(r)aren[1]」または「オヨゲン」「タベレン」などの「語幹+(r)en[1]」を使い、能力可能の方には「オヨギキラン」「タベキラン」などの「語幹+(i)kiran[2]」または「オヨギエン」「タベエン」などの「語幹+(i)en[2]」を使う(表1・表2・表3参照).どの質問文を(r)aren、(r)enで答え、またどの質問文を(i)kiran、(i)enで答えるかは個人により地域により多少差があるが、少なくともどの個人を取ってみても、両語形の使いわけが見られた。

注(1) (r)aren、(r)en の(r)は、母音語幹動詞のときに現れる。

(2) (i)kiran 、(i)en の(i)は、子音語幹動詞のときに現れる。

状況可能については後で詳しく述べるつもりなので、ここでは能力可能について調査結果をまとめてみることにする。まず(i)kiranは調査したすべての地域にみられるが、(i)enは長崎県のみに見らる語形である。それもほとんどが(i)kiranとの併用で出てくる。『九州方言の基礎的研究』によると、長崎県と佐賀県の一部に「ノミユル」「ノミユッ」(「ノミエン」の終止形)の形が報告されているが、我々の調査では、佐賀県にはこの形が出て来なかった。『講座方言学』の「佐賀の方言」には「今日では能力可能についてヨミキルを使う地域が次第に増加する傾向にある」という記述があるから、若い人たちの間で(i)enの形が急速に衰えつつあるのかもしれない。

また地域によっては(i)en ではなくて、「オヨガエン」「イカエン」「タベエン」のように、(a)en[3]を使う地域がある。『九州方言の基礎的研究』では、長崎県の北高来郡(老)と福江市(老・少)に「ノマユッ」、上五島(老・少)に「ノマユイ」、南高来郡(少)と北松浦郡(少)に「ノマユル」が報告されている。愛宕論文によると、「「イキャエン」、「イカエン」の言いかたは、長崎市内などではあまり聞かれず、西彼杵半島や島原半島域によく聞くことができる」とあり、我々の調査でも南高来郡と五島に(a)en が現れ、壱岐と平戸には(i)en が現れた。

注(3) (a)en の(a)は、子音語幹動詞のときに現れる。

(6)

なお、(i)kiran と(i)en ・(a)en との意味の差は、井上の内省によるとほとんどないということである。愛宕論文には「「～キラン」が、多くの場合、能力不能の動作主体が、表現者（話者）と重なったのに対して、「～エン」は、そのような片寄りを見せない」とあるが、我々の調査では、人間以外の動物が動作主体となる（1）の（ホ）や（3）の（ヘ）、（8）の（ホ）に(i)kiranを答える場合が結構あった。また、非情物主体の（4）、（5）、（6）でも(i)kiranの回答がかなりあった。

(i)en ・(a)enを使う上記の地域では、(i)en・(a)en は、井上の内省と一致して、だいたい(i)kiranと同時に現れている。その場合、壱岐や平戸では(i)en の方を上位に置いていることが多いが、南高来郡では(i)kiranの方を上位に置いていることが多い。しかし南高来郡のＡさんの場合、(i)kiran と(a)en との順位が一定していない。だいたいにおいて、(i)kiranが(a)en よりも上位に来ていることの方が多いのだが、（2）の（ハ）「こんなうるさい所では」と（ホ）「こんなにたくさん、明日までには」では「カカエン」「カキキラン」の順で答えているのに対して（2）の（ニ）「こんな難しい字は」ではその逆の「カキキラン」「カカエン」の順で答えているのである。また（4）の「咲く」という動詞では、すべて「サカエン」「サキキラン」の順で答えている。あるいはＡさんにとって、(i)kiran の方が（a)enに較べて「努力して身につけた能力」という意味あいが強いのかもしれない。

同じ南高来郡のＳさんでは、「見る」「出る」「寝る」「する」のような語幹一音節動詞にかぎって(i)en に係助詞waの挿入された(i)waen [4] の形が現れる。Ｓさんがこの(i)waen で回答しているのは、（9）の（ハ）「怖い映画は」、（ニ）「このごろ眼がすぐ疲れて長くはテレビ」、（10）の（ハ）「仮装行列とかはずかしくて」、（ニ）「泳ぎがまだへただから沖の方までは」、（11）の（ロ）「今日はたっぷり昼寝したから夜になっても」、（ハ）「まだ8時だから寝ろって言ったって」、（ニ）「布団じゃないとベットじゃ」の6箇所である。一方、Ｓさんが(i)kiranと答えているのは、（9）の（ロ）「眠たくてもうこれ以上テレビ」、（10）の（ロ）「足怪我したから運動会に」、（11）の（イ）「周りがうるさくて」の3箇所で、Ｓさんの場合は(i)waen の方が(i)kiranよりも「努力して身につけた能力」という意味あいが強いような感じである。

注(4)　(i)waenの(i) は、子音語幹動詞のときに現れる。

五島のＫさんでは、(i)kiran と(a)en との間に意味の差があるのかどうかよくわからない。Ｋさんは、能力可能が予測されるところに(a)en のみで回答している場合が多い。選択枝の中に(i)kiranの形が含まれているにもかかわらずである。しかし（8）の（ニ）「ニンジンは嫌いだから」、（ホ）「捨て猫にごはんをやったけど、弱っていて」の項目になると「タベエン」の回答がなく、「タベキラン」のみで回答しているし、また、（3）の（ハ）「大勢の前では恥ずかしくて」、（ニ）「知らない人に「たばこを吸わないでください」なんて」、（ホ）「早口ことばは」、（8）の（ロ）「風邪をひいて食欲がないから御飯」、（ハ）「お腹がいっぱいでもう」、（13）の（ハ）「そんな難しい問題は」、（ニ）「まだそこまで習っていないから」、（ホ）「「テニスの相手して」「いや、あんた強いから相手なんか」」の8項目では、(i)kiran と(a)en の両形が併存している。そしてこのような時はいずれも(i)kiranが(a)en の上位に来ているのである。あるいはＳさんの(i)kiranにも南高来郡のＡさんと同じような意味あいがあるのかもしれない。

次に、非情物が動作主の場合について見てみよう.「咲く」「回る」「上がる」の3つの動詞9つの質問文に関して、(i)kiran と答えた人がどの地域でもかなりあった（表3参照).しかし一方で、「サカン」「マワラン」「アガラン」のように、可能表現を使わない回答も見られた.「回る」という動詞では（イ)「洗濯物を入れ過ぎたから洗濯機が」のところで「マワリキラン」と答えた人が最も多かった。このことは、最初に述べたように、非情物に対して(i)kiranを使うと話手の期待と失望とがこめられた表現になることをよく物語っている。（ロ)「もう古くなった」り（ハ)「コードの接触が悪い」のでは、洗濯機が回ることに対する話手の期待度が大きいとは言えない.「回る」能力が当然あると期待して洗濯物を入れた、その洗濯機が回らない場合に「マワリキラン」が使われるのである。

「咲く」では(i)kiranを使う割合が他の動詞に較べて高くなっているが、これも「花が咲いて欲しい」という話手の期待の現れであろう.「上がる」では逆に、(i)ran の割合が低くなっているが、これは「凧が上がる」という場面を設定したために、多くの被調査者にとって期待度が小さいと判断されたためであろう。

4、外的状況可能と内的状況可能

状況可能はどの地域も(r)aren または(r)en で表されるが、問題となるのは、(r)arenと(r)en との違いである。種・糸井、種・日高論文によると、(r)arenは客観状況可能を表し(r)en は主観状況可能を表すという。種・糸井・日高の言う客観状況・主観状況とは、森田良行『基礎日本語』や渋谷勝己「可能表現の発展・素描」の外的条件・内的条件にあたるようである.「客観」「主観」ということばは誤解をまねきやすいので、ここでは「外的状況可能」「内的状況可能」ということばを使うことにする。

まず表1・表2を見ると、地域によって(r)aren を使うか(r)en を使うか、差があるようである。とくに筑後・佐賀・長崎は、(r)enの回答率がきわめて低く、(r)arenの地域だと言ってよいだろう。これらの地域では表1からわかるように、(r)arenと(i)kiranとがちょうど相補うように分布していて、この二つの語形式で可能表現をまかなっていることがわかる。こまかく見れば、質問文によって(r)en を回答する割合が少しずつ違ってはいるけれども、(r)arenと意味の違いをもって張り合うほどの勢力は、(r)enにはないと考えてよいと思う。

筑豊は、上の三つの地域によく似た傾向を表すが、(r)enの出てくる割合が少し高い.「食べる」という動詞で、(イ)「このケーキ腐っているから」の時には「タベラレン」が多く、（ロ)「風邪をひいて食欲がないから」の時には「タベラレン」が減って「タベレン」が増えているところを見ると、あるいは(r)aren に外的状況可能、(r)en に内的状況可能という意味の差があるのかもしれない.「出る」や「寝る」でも（イ）よりも（ロ）の時に「デレン」「ネレン」がやや増えているから、母音語幹動詞にこの傾向が強いのかもしれない。しかし、まだ状況可能では全般的に(r)aren の方が優勢で、(r)en が内的状況可能を表すというほどには確立していないと思う。

北九州や宗像・福岡（若）は、(r)arenの割合がさらに低くなって(r)en が増えてくる。とくに子音語幹動詞では、(r)arenと(r)en との割合が半々と言ってもいいくらいである。

(8)

しかしここでも(r)aren と(r)en との意味の差はないと言ってよい。これらの地域ではどの質問文においても、(r)arenの割合が減ってその分、(r)enの割合が増えているのである。ということは、(r)enが他の地域に較べて多いと言っても、それは意味の違いに応じてのことではなくて、(r)arenと同等のものとして、あるいは(r)aren に代わるものとして(r)enが使われているということである。宮崎や村嶋の内省でも、両者の違いはほとんどないという。

母音語幹動詞になると、(r)enはさすがに子音語幹動詞の場合よりも少なくなっている。とくに、語幹一音節動詞における「ミレン」「デレン」「ネレン」のような形は、まだあまり一般的ではないようである。しかし若い人たちの会話では、このような形をしばしば耳にするから、調査をはなれると実際にはもっと使っているのかもしれない。

我々の調査で築上地域は、(r)arenと(r)en の違いが意味の違いに対応している唯一の地域だった。この地域では、上の北九州や宗像・福岡と違って、(r)enの使い方に明らかな偏りがある。例えば「泳ぐ」という動詞で、(イ)「水が汚いから」や (ハ)「水着を家に忘れて来たから」のところでは「オヨガレン」と回答し、(ロ)「足を怪我したから」では「オヨゲン」と回答する被調査者が多かった。その他の動詞でも、(r)arenと(r)en とがきちんと質問文によって答え分けられている。(r)arenと(r)en の区別は次のようになっていて、(r)arenが外的状況可能、(r)enが内的状況可能と言ってよさそうである。室谷の内省でもこれと同じ区別があるという。

- 机をがたがたさせたら……カカレン
- 部屋が暗すぎて……カケン

- 道路工事中で・大きな犬がいて怖いからあの道……トオラレン
- 道が狭くて……トオラレン・トオレン

- このケーキ腐っているから……タベラレン・タベレン
- 風邪をひいて食欲がないから御飯・お腹がいっぱいでもう……タベレン

- 明日は用事があるからそのテレビ番組……ミラレン
- 眠たくてもうこれ以上テレビ…… ミレン

- 選手に選ばれなかったからリレーには……デラレン・デレン
- 足怪我したから運動会に……デレン

- 周りがうるさくて……ネラレン
- まだ8時だから寝ろって言ったって……ネラレン・ネレン

- そんなに朝早くはバスの便がないから……イカレン
- 明日は用事があって学校には……イケン

大分は、(r)arenと(r)en が意味の違いに対応しているのかどうか、よくわからない。大分県では一地域に纏まって被調査者が得られなかった関係上、集計がやや広範囲に渡ってしまった嫌いがあって、このことが結果にも悪い影響を与えているのかもしれない。しかし動詞によっては両者の区別が見受けられるものもある。例えば「通る」では、「道路工事中で」の時には「トオラレン」という回答が多いが、「道が狭くて」では「トオラレン」と「トオレン」が相半ばする。また「食べる」でも、「このケーキ腐っているから」では全員が「タベラレン」と回答しているのに、「風邪をひいて食欲がないから」では「タベレン」

が断然多くなっていて築上と同じ傾向を見せている。「見る」という動詞でも「明日は用事があるからそのテレビ番組」は「ミラレン」が多いのに対し、「このごろ眼がすぐ疲れて長くはテレビ」は「ミレン」が多い。その他の動詞においては、(r)arenと(r)en との間に明確な差を見出すことができなかった。

以上をまとめると、(r)arenと(r)en との間に意味の差があるのは築上地域と大分県で、その他の調査地点では、両者の間に明確な差はない、差のある地域では、(r)arenが外的状況可能を表し、(r)enが内的状況可能を表す、ということになる。

いま、(r)arenと(r)en の差のない地域で(r)en の性格をもう一度考えてみると、(r)enの現れ方には(r)aren とは異なる、ある傾向のあることがわかる。それは、(r)enの現れる位置が(i)kiranの現れる位置としばしば重なっていることである。表1と表2を比較すればわかるように、(i)kiran が△(30%～70% 未満) のところで(r)en も△になっているケースが多い。そのうえ表には現れていないけれども、同じ質問文で(i)kiranと(r)en の両方を回答した人が結構多いのである。このことは、(r)arenが(i)kiranとほとんど重ならずに、相補うように分布していることと較べて、(r)enの性格をよく物語っていると思う。つまり(r)en はこれらの地方において、(r)arenと等価のものであると同時に(i)kiranとも非常に近いもの（等価とまではいかなくても）なのである。おそらくもとは(r)aren と(i)kiranの二つの語形で可能表現を体系づけていたところへ、(r)enが新たに入って来て（あるいは生じて）、その時(r)en は(r)aren の意味範疇とも(i)kiranの意味範疇ともつかない両方の範疇を表すものとして入っていったのだろう。一方この時、(r)enが(r)aren ・(i)kiran両方の意味範疇のどちらでもない、第三の範疇として確立したのが築上・大分県の体系だと言うことができるだろう。

5、福岡市における年代差

福岡市では若年層の他に中年層も調査することができたので、その比較をしてみたい。すでに表1・表2からわかるように、10代・20代はそれほど大きな違いはないが、30代以上になるとかなりの違いが出て来る。その中特に、(r)aren、(r)enの使い方の違いについて述べてみたい。図1・図2は、(r)arenの回答率、(r)enの回答率を年代別に割り出し、折れ線グラフにしたものである。回答率の出し方は次のとおり。例えば「泳ぐ」という動詞であれば、30代以上8名中「オヨガレン」と答えた人がイ＝6名、ロ＝6名、ハ＝5名、ニ＝1名、ホ＝0名あった。この数をすべて足して（18名）、その数値を回答者の述べ人数（8×5＝40）で割ったもの(45%) が図1の30代以上「泳ぐ」の値である。以下この方法で各動詞、各年代の数値を割り出してグラフに描いた。

これを見ると、30代以上では(r)aren の回答率が高くて(r)en の回答率が低くなっているのがよくわかる。逆に10代・20代では30代以上に較べて(r)aren の回答率が低く(r)en の回答率が高くなっている。このことから、(r)enは若年層の間でここ10年の内に急速に広まっていると言えるだろう。動詞別に見ると、先に述べたように、母音語幹動詞では子音語幹動詞に較べて(r)en の回答率が低くなっている。しかし、(r)arenの回答率がそれに反比例して特別高くなっているというわけではないので、母音語幹動詞において(r)aren か

ら(r)en への変化が早く起こったということではなさそうである。質問文の解釈にもよるのだろうけれども、母音語幹動詞では(i)kiranの形で答えるケースが多かったためである。

図1・図2を年代別に整理したのが図3・図4・図5である。30代以上では(r)aren がすべての動詞で(r)en を上回っているのに、20代や10代では子音語幹動詞の時にはむしろ(r)en のほうが(r)aren を上回っているのがわかる。参考のために(r)eren をグラフに加えておいたが、10代にはわずかながらこの語形が現れている。

図1 (r)aren

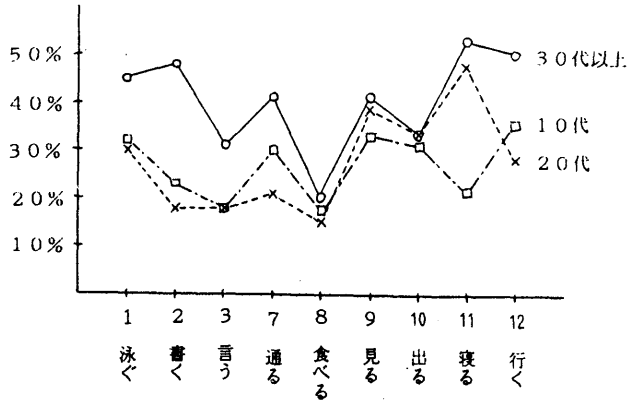

図2 (r)en

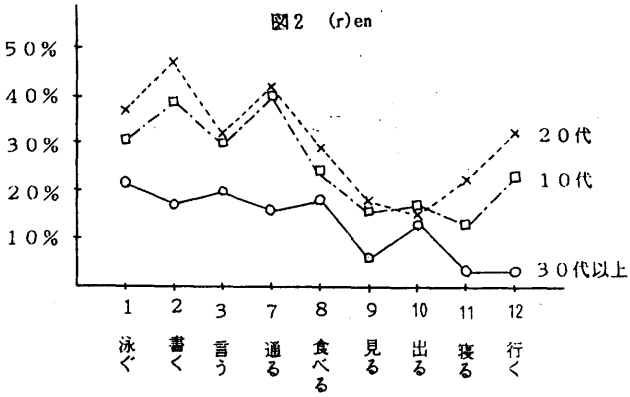

図3 30代以上

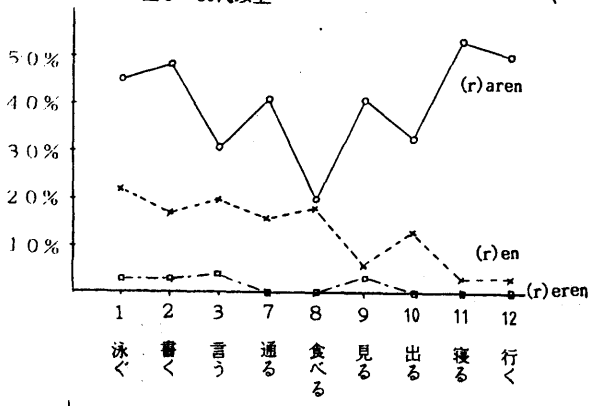

図4 20代

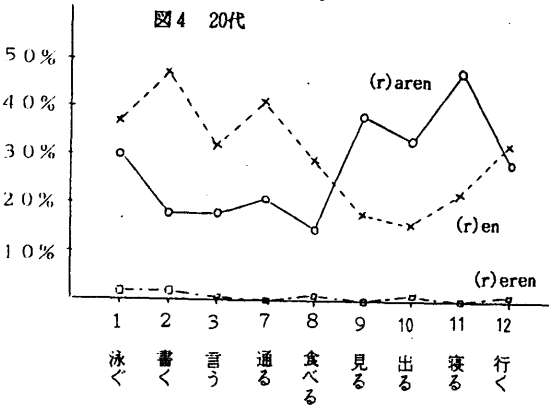

図5 10代

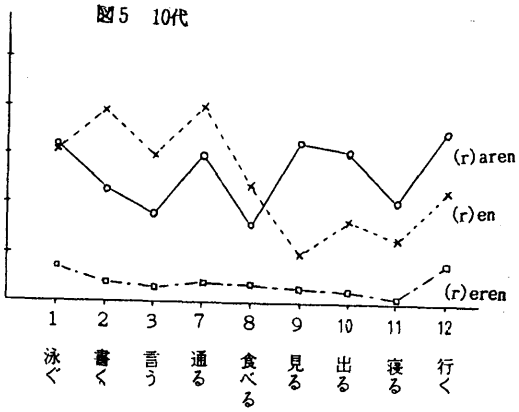

表1　(r)aren ・(i)kiran

		大分	北九州	築上	筑豊	宗像	福岡 10代	福岡 20代	福岡 30以上	筑後	佐賀	長崎
人数		5	9	7	6	4	20	38	8	19	9	23
1 泳ぐ	イ	◎・	△・	△×	◎・	△・	△・	△・	◎・	◎・	◎・	◎×
	ロ	◎×	△・	・×	◎×	△・	×・	△・	△×	◎・	◎・	△△
	ハ	◎・	△・	△×	・◎	△・	△・	△・	×◎	◎・	◎・	◎×
	ニ	◎・	×△	・◎	・△	×△	×◎	×△	×◎	×◎	×◎	×△
	ホ	◎・	・△	・△	・◎	・△	×△	・◎	・△	・◎	・◎	・△
2 書く	イ	△・	△・	△・	◎・	×・	△・	△・	◎・	◎・	◎・	◎×
	ロ	△・	△・	・×	◎・	・・	△×	××	△×	△・	◎・	△×
	ハ	△×	・×	△・	△△	×・	××	××	△×	◎・	△×	△△
	ニ	・◎	・◎	・◎	×△	・◎	・◎	・◎	×◎	・◎	・◎	・◎
	ホ	・△	×△	・△	・◎	・△	×△	×△	△△	×◎	・◎	・◎
3 言う	イ	△・	△・	△×	△・	×・	△・	△・	△・	◎・	△・	◎×
	ロ	△×	・×	×・	△・	△・	△×	△・	◎・	◎・	△・	◎×
	ハ	・◎	・△	・◎	・◎	・◎	・△	×△	△△	×△	・△	×◎
	ニ	・◎	・◎	・◎	・◎	・◎	×△	・◎	×△	×◎	・◎	・◎
	ホ	・◎	・△	・◎	・◎	・△	・◎	×◎	・△	・◎	・◎	・◎
7 通る	イ	◎・	△・	◎・	◎・	×・	△・	△・	◎・	◎・	◎・	◎・
	ロ	△・	◎・	△・	◎・	×・	△・	×・	×△	◎・	△×	◎×
	ハ	・◎	×◎	◎・	・◎	・△	×◎	×◎	△△	×△	・◎	×◎
	ニ	・△	・△	・△	・△	・△	×△	・△	・◎	・◎	×◎	・△
8 食べる	イ	◎・	△・	△・	◎・	△・	△×	△×	△×	◎・	◎・	◎・
	ロ	・×	×△	・△	・△	××	×◎	×△	△△	×◎	・◎	・◎
	ハ	・△	×△	・△	×△	・・	×△	×△	・△	×△	・◎	・◎
	ニ	・◎	・◎	・◎	・◎	・◎	×△	×△	・◎	×◎	・◎	×◎
	ホ	・◎	・△	・◎	・◎	・◎	×◎	×◎	・◎	・◎	・◎	・◎
9 見る	イ	◎・	◎・	◎・	◎・	◎・	◎・	◎・	◎・	◎・	×◎	◎・
	ロ	・◎	・◎	・△	・◎	×△	×△	×△	××	・◎	×◎	・◎
	ハ	・◎	・◎	・◎	・◎	・◎	・◎	・◎	・◎	・◎	・◎	・◎
	ニ	・×	△△	×◎	△△	×◎	×△	△△	△△	×△	×△	×◎
10 出る	イ	◎・	◎・	△・	◎・	◎・	◎×	◎・	◎・	◎・	◎・	◎・
	ロ	◎・	◎・	×・	◎・	△・	△×	◎・	◎・	◎×	◎・	△×
	ハ	・◎	・◎	・◎	・◎	×◎	・◎	×◎	・◎	×◎	×◎	・◎
	ニ	・◎	×△	××	・◎	・◎	×△	×◎	・◎	×◎	×◎	×◎
	ホ	・△	・△	・△	×△	・◎	×△	・◎	×◎	・△	・◎	×△
11 寝る	イ	△×	△・	◎・	◎・	◎・	◎×	◎×	◎×	◎・	◎×	△△
	ロ	×△	△×	△・	△・	△・	△×	△×	△×	△△	△△	×△
	ハ	××	△×	△×	×△	△・	×△	△△	△△	△△	×△	×◎
	ニ	・◎	△△	×△	・◎	・◎	×◎	×△	・◎	×◎	×△	×△
12 行く	イ	◎・	△・	◎・	△・	△・	◎×	△・	△・	◎・	◎×	◎×
	ロ	◎・	◎・	×・	△・	△・	△・	△×	△・	◎・	△×	◎×
	ハ	・◎	△△	・△	・◎	×△	×◎	×◎	・◎	×◎	×△	・◎
	ニ	・◎	・△	・△	・◎	・◎	・△	×◎	・◎	×◎	・◎	・◎
13 する	イ	◎×	◎・	◎・	◎×	◎・	◎×	◎×	◎×	◎・	◎・	◎×
	ロ	◎・	◎・	◎・	◎・	◎×	◎×	◎×	◎×	◎・	◎・	△△
	ハ	・◎	・◎	×◎	×◎	・◎	×◎	×◎	×◎	・◎	・◎	・◎
	ニ	・◎	・◎	×◎	×◎	・◎	×◎	×◎	×◎	・◎	・◎	×△
	ホ	△△	×◎	×△	×△	×◎	×◎	×◎	×◎	・◎	・◎	×◎

（注）各地域とも、左の列は(r)aren の回答率、右の列は(i)kiranの回答率。
◎……100%　　×……1％ ～30% 未満
○……70　～100%未満　　・……1％ 未満
△……30　～ 70%未満

表 2　(r)en

		大分	北九州	築上	筑豊	宗像	福岡 10代	福岡 20代	福岡 30以上	筑後	佐賀	長崎
人数		5	9	7	6	4	20	38	8	19	9	23
1 泳ぐ	イ	・	△	×	×	△	△	△	×	×	×	×
	ロ	・	△	▨	・	△	△	△	×	×	×	×
	ハ	・	△	×	・	△	△	△	×	×	×	×
	ニ	・	×	×	×	・	×	×	×	×	×	×
	ホ	×	△	×	△	×	×	×	×	×	×	△
2 書く	イ	△	△	×	×	▨	△	△	×	・	×	×
	ロ	△	△	▨	×	▨	△	△	△	×	×	×
	ハ	△	▨	△	×	△	△	△	△	×	×	×
	ニ	×	×	・	△	×	×	×	×	×	×	×
	ホ	×	△	×	×	△	×	×	・	×	・	×
3 言う	イ	△	△	△	△	▨	△	△	△	×	△	・
	ロ	△	×	△	△	△	△	△	×	×	△	×
	ハ	×	△	△	×	△	△	△	×	×	△	・
	ニ	×	×	×	×	×	×	×	△	×	×	×
	ホ	・	×	・	×	・	×	×	△	・	・	×
	ヘ	・	△	×	×	△	×	×	×	×	・	×
7 通る	イ	×	△	×	×	▨	△	△	・	×	×	・
	ロ	△	×	△	×	▨	△	▨	△	×	×	×
	ハ	・	・	×	×	△	×	×	・	×	・	・
	ニ	×	△	×	△	△	△	×	×	×	×	×
8 食べる	イ	・	△	△	×	△	△	△	×	×	・	・
	ロ	▨	△	△	△	△	×	△	・	×	×	×
	ハ	△	△	△	×	・	×	△	△	×	・	・
	ニ	×	×	・	×	・	△	△	・	×	×	×
	ホ	×	×	×	・	・	×	×	×	×	×	×
9 見る	イ	×	×	・	×	×	×	×	・	・	・	×
	ロ	×	×	△	×	×	×	×	×	×	・	×
	ハ	・	・	・	・	・	×	×	・	×	・	・
	ニ	▨	×	×	・	・	×	×	・	×	×	×
10 出る	イ	×	×	△	・	×	×	×	×	×	×	×
	ロ	・	×	▨	×	△	△	×	△	・	・	×
	ハ	・	×	・	×	・	×	×	・	・	・	・
	ニ	・	・	×	・	・	×	×	×	・	・	・
	ホ	・	×	・	・	・	×	×	・	・	・	・
11 寝る	イ	×	△	×	・	×	×	×	・	・	・	×
	ロ	×	×	×	△	△	×	△	×	×	×	×
	ハ	△	△	△	△	△	×	×	・	×	×	・
	ニ	×	×	×	・	・	×	×	・	×	×	×
12 行く	イ	・	△	×	△	△	×	△	・	×	×	×
	ロ	×	×	△	△	△	△	△	・	×	×	×
	ハ	・	×	×	・	×	×	×	・	×	×	×
	ニ	・	△	・	・	・	×	×	×	×	×	×
13 する	イ	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	ロ	・	・	・	・	・	×	・	・	・	・	・
	ハ	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	ニ	・	・	・	・	・	・	・	・	×	・	・
	ホ	・	・	・	・	・	・	・	・	×	・	・

表3　非情物主体の(i)kiran

		大分	北九州	築上	筑豊	宗像	福岡 10代	福岡 20代	福岡 30以上	筑後	佐賀	長崎
人数		5	9	7	6	4	20	38	8	19	9	23
咲く	イ	△	△	△	▨	▨	△	△	▨	▨	▨	△
	ロ	△	△	△	▨	▨	△	△	△	▨	▨	△
	ハ	△	△	▨	▨	△	▨	▨	▨	△	△	△
	ニ	△	△	▨	▨	△	△	△	△	▨	▨	△
回る	イ	△	△	▨	△	▨	△	△	▨	△	△	△
	ロ	△	△	△	△	×	△	△	△	△	△	△
	ハ	×	△	▨	△	・	△	×	△	△	△	△
上がる	イ	△	△	▨	△	×	△	△	△	△	△	△
	ロ	△	△	▨	△	×	△	△	▨	△	△	△

＜文献＞

愛宕八郎康隆(1978)　「肥前長崎地方の「～キル」「～ユル」について」(「長崎大学教育学部人文科学研究報告」27)

九州方言学会(1969)　『九州方言の基礎的研究』(風間書房)

国書刊行会(1983)　「九州の方言」(『講座方言学』9)

渋谷勝己(1986)　「可能表現の発展・素描」(「日本学報」5)

種友明・糸井寛一(1977)　「大野川流域における可能表現」(『大野川―自然・教育・社会―』)

種友明・日高貢一郎(1981)　「大分県津江地方の可能表現」(「大分大学教育学部研究紀要」5―6)

森田良行(1977)　『基礎日本語』(角川書店)

(福岡女学院短期大学講師)